

藤原学園実験教育研究所

2025年度
入学案内

? から ! ^

目次

P 4	・ ・ ・	教育理念
P 5	・ ・ ・	藤原学園が大切にしていること
P 6	・ ・ ・	小豆島実習場『星くずの村』
P 7	・ ・ ・	合宿学習について
P 8	・ ・ ・	理科実験へのこだわり
P 9	・ ・ ・	実験学校について
P10	・ ・ ・	中学部 本科コース
P12	・ ・ ・	中学3年生について
P13	・ ・ ・	中学1年生・2年生について
P14	・ ・ ・	小学部 本科コース
P16	・ ・ ・	ジュニアサイエンス
P17	・ ・ ・	個別指導コース
P18	・ ・ ・	ご入塾までの流れ
P19	・ ・ ・	教室紹介 / お問い合わせ

教育理念

真の教育とは

受験戦争に駆り立て、点数を上げることで子どもの放恣のままに育てることでもない。子どもたちにでき得る限りの機会と洗練された環境を与え、規律ある範疇の中で行動させ、思考させ、子どもの内に潜在する千差万別な能力、着想力、独創力、構想力を最大限に引き出し、発展させ、将来人間として悔いのない生活を享受でき得るよう指導者の深い洞察力と大きな愛によって、絶え間なくはぐくむことである。

藤原学園創設者 藤原 信(つよし)



夢を追い続けて

子どもは本来好奇心のかたまりで、体全体を使って行動し、さまざまな体験を通して成長するものです。そういう体験の場を与えることが、次代を担う子どもたちに対する大人の責任と考えます。

知識偏重ではなく、自然体で物事に取り組む中で、自ら学び解決する姿勢を持った子どもたちを育成したいと念願しています。

学園長 藤原 眞也



藤原学園が大切にしていること

「どうしてだろう?」「なぜだろう?」という疑問が多ければ多いほど、子どもたちはさまざまな答えを手にしてゆくはずです。

その時、私達が最もこだわっていることは、単にその答えや答え方を教えるのではなく、様々な過程をたどって自ら「答え」を手にする事の大切さです。それがどの教科にも共通する『学習の原点』と考えます。

好奇心で始まるたくさんの「?」を一つずつ「!」にしながら、子どもたち一人一人が学習の楽しさを知り、自ら学習に向かう姿勢作りを藤原学園は最も大切にしています。

小豆島実習場 『星くずの村』

1956年に藤原理科実験教育研究所を設立し、その翌年の1957年から藤原学園の合宿学習を実施してきました。当初8年間は、琵琶湖青柳ヶ浜の民宿を借りて行っていましたが、1965年より小豆島実習場『星くずの村』の建設を始め、実験室や宿舎、グラウンドなどを徐々に建設し、現在では10,000㎡（3,000坪）の敷地に第1～9宿舎まである膨大な施設です。

60名収容出来る実験などを行える多目的ホールが3つ、30～50名収容出来る実験室が3つ、40～50名収容出来る野外実験施設が2つ、計200名収容出来る宿舎、キャンプ場、大・中浴場があり、それらの部屋それぞれに星や星座の名前が付けられています。

『星くずの村』ではそれらの施設を存分に使い、様々な実験や受験学習はもちろん、植樹された8,000本もの木々や四季折々の草花の観察、満天の星空を見ながらの星座学習、昆虫採集や海水浴、キャンプファイヤーなどを行います。

都会や家庭で経験するのが困難な自然科学的教材と集中的な学力育成を大自然の中の卓越した設備の中で伸び伸びと体験させてあげたいと考えています。

ただ、このような宿舎、実験施設、学習施設、運動施設を兼ね備えた合宿場があったとしても、保護者様や子どもたちの視点から見ると、費用も移動時間もかかり親元を離れる事で心配も増えます。それこそ、いわゆる受験戦争で勝つ事のみを目的にした場合には到底必要ないものだと思います。

学習塾や他の教育機関の視点でも、建設費用もかかればそこに行くまでの移動時間もかかります。宿泊や様々な体験・実習などを行う事によって普段の生活よりも気をつける事も増え、何かあった際の責任も増えます。労力もコストもかかって経営を圧迫する可能性も増えます。受験当日だけを見据えて指導していく方が、よほど効率もコストパフォーマンスも良いでしょう。

それでも、私たちは半世紀以上に亘って合宿学習を続けてきました。子どもたちの人生は受験で勝つ事がゴールでは無いと考えるからです。

子どもは本来好奇心のかたまりで、身体全体を使って行動し、様々な体験を通して成長するものです。そのような体験の場を与え、成長の糧となる経験、時に試練や援助を与える事が、次代を担う子どもたちに対する大人の責任と考えます。知識偏重ではなく自然体で物事に取り組む中で、自ら学び解決する姿勢を持った子どもたちを育成したいと願っています。

『星くずの村』は、そんな子どもたちへの夢と希望が形になった施設であり、そこでの合宿学習が子どもたちの頭も心も身体も大きく育むと確信しています。



合宿学習

【対象学年】 小学5年生～中学3年生

《夏合宿》

夏休みには、星くずの村で『夏合宿』を行います。お子たちそれぞれに合わせた弱点对策学習を行う合間に、夏らしい実験や海辺へ行って生物の観察をしたり、シュノーケリングや手漕ぎボートでツーリングといったマリンスポーツをしたり、夜のキャンプファイヤーではみんなで出し物をして楽しんだり、晴れた時には満天の星空で星や星座の勉強をしたり、普段、大阪ではなかなか味わう事の出来ない様々な行事を体験して頂きます。



《冬合宿》

冬休みには、星くずの村で『冬合宿』を行います。お子たちそれぞれに合わせた弱点对策学習に加えて、各学年でそれまで習った内容の総復習を行います。また、中学3年生にとっては高校入試まで残りわずかな期間になりますので、1日約10時間の学習を行い、最終夜には恒例の『徹夜学習』を行い朝までとことん勉強します。

勉強の合間には卓球大会や餅つき大会、百人一首大会で古典の勉強をしたり、小豆島の絶景ポイントから朝陽を見たり、晴れた時には満天の星空で星や星座の勉強も行います。



理科実験へのこだわり

「なぜだろう?」「どうしてだろう?」と思ったときから、子どもたちの心も体もフル回転。実験観察を自らの手で行うことにより、思考力を養い、相乗効果として楽しさのうちに想像力・実行力・着想力がうまれ、将来、社会に貢献できる人財が育成されます。

理科実験の流れ・・・結果に至るプロセスを経て、思考力が養われます。



●なぜ理科実験か●

藤原学園は昭和31年の開塾時より理科実験を実施しています。戦後間もない物資に恵まれない中で、いろんな工夫をしながら実験を実施してきました。

なぜ理科実験なのでしょう。それは子どもたちの反応がダイレクトで、授業をする側も受ける側もワクワクするというのが一番大きな理由です。そして結果だけにとらわれるのではなく、その結果に至るプロセスを一つ一つ解明する中で新しい発見があり、思考力が養われていくというところが素敵なのです。

体験して得た知識というのは忘れません。そして将来子どもたちが何かをする時のきっかけにつながることもあります。だからこそ今のうちにあらゆることを「体験」し、体を使って「体感」させることが大切なのです。

●藤原学園が理科実験にこだわる理由●

「何かを学ぶためには自分で経験する以上にいい方法はない」(アインシュタイン)

藤原学園では受験生といえども理科実験を実施しています。実験は手間暇がかかるものです。文章を読むだけで「これはこうなります。理屈は分かりましたね。じゃあ結果を覚えましょう。」というのではありません。言葉で説明すれば10分、15分で済むところを1時間以上かけて実験します。今のインスタントの時代には逆行しています。しかしながら実際に試すことで得ることは大きく、たくさんあるのです。

子どもたちを取り巻く社会情勢はこれからますます厳しいものになっていくでしょう。自ら創意工夫を凝らして課題をクリアしていく力を身につけていくことが、将来を実りあるものにしていくのです。

そのためにも多くの体験を積み、体感していくことがすべての基本と考えて子どもたちと接しています。



アンモニアの噴水実験(昭和41年)



アンモニアの噴水実験(平成27年)

『星くずの村』実験学校

【対象学年】小学1年生～高校3年生

藤原学園が行う理科実験を、大阪や近隣以外にお住まいの子どもたちにも体験して欲しいという思いから、1993年より『星くずの村』にて実験や自然体験のみを行う“実験学校”を行ってきました。昨年度で通算320回の開催を迎えました。季節に応じて様々な実験や自然体験を行い、子どもたちの好奇心を喚起し科学への関心を深めます。また、参加対象となる学年を幅広く設け、小さな学年から大きな学年まで楽しんで頂ける内容となっております。

基本的には土曜・日曜・祝日を利用した1泊2日で行いますが、夏休み中には2泊3日に拡大して行っております。

ワクワクドキドキ心躍る実験が詰まった『星くずの村』実験学校のホームページを、お子様と一緒にぜひご覧下さい。

星くずの村 実験学校

検索



実験学校HP



中学部 本科コース

【対象学年】 中学1年生～中学3年生

【実施教科】 学年によって異なります。※詳細は次項以降に記載。

『出来るまで頑張る子を育てる』

めまぐるしく変わる受験制度ですが、やるべきことは同じです。日々の学習にしっかりと取り組むということです。以前とは異なり、中学1年生・2年生の成績も高校入試の内申点に反映されるようになりました。「受験勉強は3年生になってから。」という考えのまましていると、大きなハンデを背負うことになってしまいます。内申点に大きく影響してくるのは、定期テストの成績と提出物（授業態度）です。

学園の教科指導では、該当学年で習得すべき内容・基準を一人一人がクリアしていけるようじっくりと定着を図ります。最初は難しく感じた教科・単元を一つ一つ得意分野に変わるまで「わかるまでおつきあい」をモットーに指導していきます。

また、指導内容は教科書の枠にとらわれたものではなく、身につけておくべきだと学園が考える内容は余すことなく伝えていきます。これは約60年という長い歴史のある学園の持つ大きな強みです。

この積み重ねこそが定期テストに、そして来るべき高校入試のときの「実力」として表れてくるのです。

定期テスト前には、平素授業のない曜日・時間に対策勉強会を行います。勉強会では、昨今その量が増大してきた中学校の課題に取り組むことのできる時間でもあり、課題をただ「こなすだけ」のものにするのではなく、「活用する」ものへと変えていくことができます。

勉強会の時間には必ず先生がつき、理解が不足している部分を納得いくまで質問することができます。

この質問こそが大きな成長を遂げるためのチャンスだと我々は考えています。小さな「分かった」「できた」という成功体験を積み重ねさせてあげることが自信となり、そして結果に結びついてゆくのです。

合格実績

《公立高校》

高津文理・大手前文理・生野文理・住吉・府大高専・八尾・清水谷・夕陽丘・布施・花園
山本・大阪ビジネスフロンティア・みどり清朋・日新・かわち野・八尾翠翔・枚岡樟風 など

《私立高校》

桃山学院・近大附属・大阪桐蔭・明星・常翔学園・常翔啓光・上宮・大阪学芸・興國
大阪夕陽丘・浪速・大阪商大・大阪産大・奈良育英・大阪女学院・追手門大手前 など

①内申対策・定期テスト対策

公立高校入試では、内申点が大きなウエイトを占めます。内申対策として、普段の授業に加えて定期テスト2週間前から対策授業を行います。

家で一人で学習するには限界があり、集中力も持続させにくいと思います。学習しやすい環境があり、解らないところが出た時に質問出来る先生がおり、周りの仲間たちの頑張っている姿を感じながら、学習方法や学習姿勢も併せて指導して参ります。

②実力テスト受験

自分の弱点を知るために、全国模擬テストを受験します。学校の定期テストでは測れない、高校入試に備える為の実力をみていきます。

中学3年生になれば、外部の模擬テスト（五ツ木模試）を受験し、その時点での実力、志望校への合格確率がどれくらいあるかを測ります。外部テストと併せて、学園での志望校判定テストも受験して頂き、受験結果を踏まえて、今後の学習課題の確認、希望校判定を行います。

③自習スペース ・ 空いている教室の開放

授業の無い曜日や時間でも、好きなタイミングに学園に来て自習スペースやその時間に空いている教室を使って自習が出来ます。生徒たちは、自主的に授業前からやってきて学習に取り組んだり、授業終了後も残ったりと、積極的に学習に取り組みます。そんな自ら学習する姿勢を持った生徒を、これからも育成していきたいと考えています。

④個人別懇談会

前期と後期にそれぞれ個人別懇談会（二者懇談）を行い、日頃の様子についてお話ししております。生徒一人一人に合った指導をしていくには、学習面だけではなく、生徒の人となりを知る事も必要と考えます。出来る限り懇談に来て頂き、家庭でのお子たちの様子も聞かせて頂いています。

中3生は12月には私立高校受験について、翌2月には11月以降の成績を踏まえて、公立高校受験校についてお話しします。

本科 中学3年生

【実施教科】 5科（国語・社会・数学・英語・理科(実験含む)）

《国語》

入試に必要な読解テクニックをおさえ、問題演習を行います。
大阪府公立高校の受験前には小論文対策を行います。



《社会》

一年間で受験対策としての地理・歴史・公民の授業と、毎週その单元ごとの重要語句のテストを行います。

《数学・英語》

『自立学習支援授業型』の授業を行います。
各自の理解度・理解速度に応じ、生徒がそれぞれの課題を自らの力で完全理解するために、演習を繰り返し行うことを、複数の教師がサポート指導する授業です。
自分で調べ・探り・考え、正解にたどり着く姿勢を育みます。

《理科》

夏休みまでに中学1・2年の復習を完了し、9月からは入試問題の演習に入ります。授業では、実験と問題演習のハイブリッド学習を行います。中学3年の学習項目を実験した次の週は、習った項目の問題演習と中1・2年生の復習を行います。入試問題は実験に関する問題が多く出題されますので、実験を体験していることは非常な強みになります。

終盤には実験の集大成として、テルミット反応、マッチ作り等の高度な実験にも取り組みます。

本科 中学1年生・2年生

【実施教科】 3科（数学・英語・理科(実験含む)）

《数学》

『自立学習支援授業型』の授業を行います。
各自の理解度・理解速度に応じ、生徒がそれぞれの課題を自らの力で完全理解するために、演習を繰り返す
行うことを、複数の教師がサポート指導する授業です。
自分で調べ・探り・考え、正解にたどり着く姿勢を育みたいと考えています。

《英語》

単語・熟語の徹底暗記・英語の語順の理解・長文読解各自のレベルに合わせて英検合格を目指します。
大阪府の公立高校入試英語の試験については、平成28年度(2016年度)より改革が始まっており、「読む、聞
く、書く、話す」の4技能をバランスよく学習することが求められます。それに合わせて入試問題も改革が
進んでいます。また各中学での定期テスト問題でも、長文読解の問題のウェイトが大きくなってきました。
その対策として、学園ではまずは単語の暗記に大きく時間を取ります。そして英語の語順の理解と演習、
長文読解演習を行います。そしてその集大成として英語技能検定試験（英検）合格を目指します。

《理科》

実験と問題演習を交互に行うハイブリッド学習です。
1週目は2時間を通して学習単元の実験を2つから3つ行います。翌週は実験で習った項目の問題演習を
行い、知識の定着を図ります。実験を通して学んだことは強く印象に残ります。また実験を体験することは、
子どもたちの好奇心をくすぐり、学習意欲の向上にもつながると考えています。

小学部 本科コース

【対象学年】 小学3年生～小学6年生

【実施教科】 国語・算数・ジュニアサイエンス

『自信を育てる』

中学・高校に通じる学習領域の全ての基礎は小学校で学びます。この時期は、自分の興味のある分野の知識を多く獲得する反面、些細なつまずきから「〇〇は不得意だ」と自己暗示をかけてしまうケースもみられます。学問の基礎を学ぶ小学生時代に、しっかりとした理解を積み重ねることを通じて、学問に対する自信を育てることを私達は大切にしています。とにかく、根気よくつきあう事と、信じながら励ますこと、大人のそんな姿勢が伝わるからこそ、やがて子どもたちは期待に応え、大きな成長を遂げてくれるものです。

《授業の進め方について》

授業については、2学年が一緒のクラスに入り（3年生と4年生、5年生と6年生）、学年を隔てずに進級式の教材を使用致します。小学校6年間分の学習内容を1級から40級に分けてあり、チェックテストで実力を確認の上、それぞれのレベルに合った級から進めていきます。

ですから、少し理解の遅れている生徒については、チェックテストによりどこでつまずいているのかを分析し、場合によっては学年をさかのぼって学習を始めます。また、理解の進んでいる生徒の場合は、学年を意識せずにどんどん進級していきます。無理なく進むサイクル学習システムなので、子どもたちはストレスを感じることなく進めることができます。チェックテストと学力テストで現時点での学力を把握し、専任講師が丁寧に指導致します。

《国語の宿題について》

国語については、毎年2月に漢字検定を受験します。新年度が始まる4月から毎週、漢字の小テストを行い、来る受験日に向けて漢字の知識を増やします。その小テストで合格出来るぐらい練習を行うことが宿題になります。

《算数の宿題について》

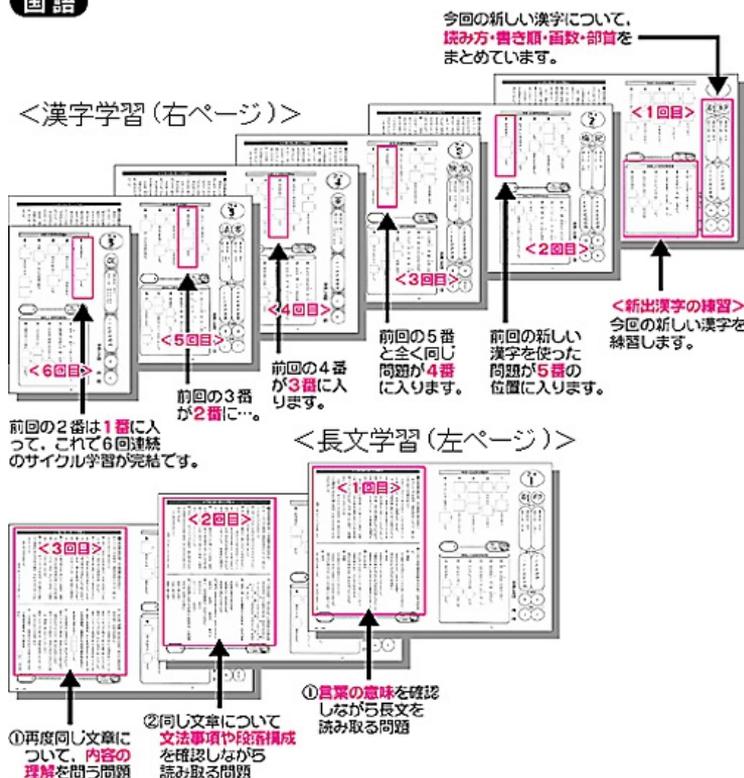
算数については、学校の教科書に準拠したテキストを別途お渡しし、学校の授業進度を都度確認しながら、既習した範囲を復習していくことを宿題としております。宿題で解らなかった問題や単元は翌週の授業で解説します。

「サイクル学習システム」とは…

1回に勉強する新しい学習内容は1つだけ。
その直後に5回連続して同じ形式の問題を解くこと
によって、理解したことを確実に記憶に定着させる、
画期的な学習システムです。

次々に新しい内容の問題が入ってくるのに、なぜ
か取り組むページは全て復習問題に見えてしまう…。
毎回100点を取り続けることを、だれでも無理なく
体験できるので、“できる自信がつく”のです。

国語

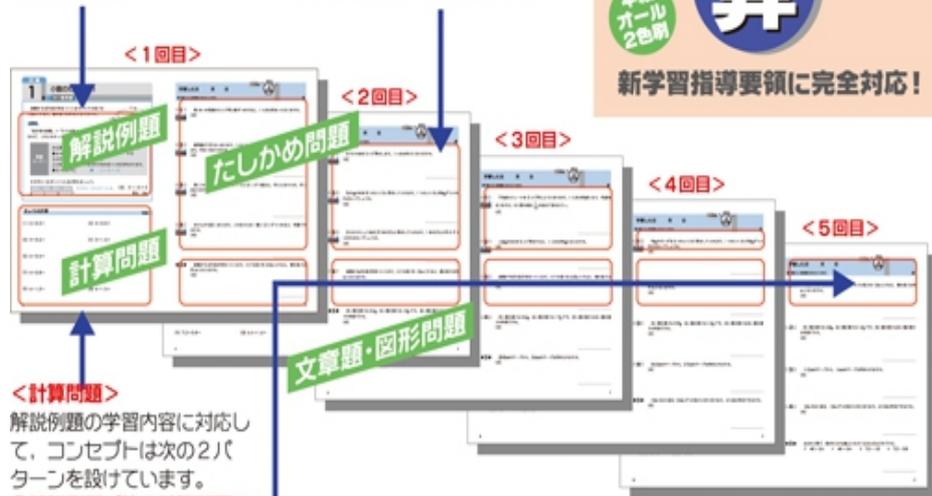


＜解説例題＞

今回の新出事項をわかりやすく
解説。次回以降の＜解説例題＞
はスマールステップで発展して
いきます。生徒の気付きにつな
げるためのひらめきコーナーも
設けています。

＜たしかめ問題＞

各級の1～4回までは、無理な
く導入を図るための「たしかめ
問題」を学習します。「たしか
め問題」は、たしかめマークで「た
しかめのポイント」にフィード
バックすることができます。



今回の新しい学習事項を使っ
た問題は5回連続のサイクル
学習として登場します。

＜1ページ＞



＜たしかめのポイント＞

各級の新出学習事項の導入をスムーズ
に行なうために、必要となる既習事項
の「たしかめ」を記載しました。

新刊
新算数
本級
パール
2色刷
新学習指導要領に完全対応!

＜くり返し問題＞

5回連続のサイクル学習が
完結されていない、10～13分
をここで完結させます。

＜14回目＞



＜この級のまとめ問題＞

＜この級のまとめ問題＞
進級テストの前に、各回の問題を
再度練習することができます。

ジュニアサイエンス(小学生理科実験)

大人から見て分かっていることでも、未知に対する好奇心旺盛な子どもたちは、たとえ小さな実験でも目を輝かせ、嬉々として打ち込みます。そこには発見の喜びと、自らが確かめたという満足感があります。実験・観察に取り組んでいる時、きれいだなあ、不思議だなあと思うことにどっぷりと浸かる中で、子どもたちの心は躍動しています。だからこそ過ごした時間は刺激的で鮮明に記憶に残り、それが将来の自分の職業につくきっかけにもなり、自分の価値観を形成するうえで影響を与えることにもなるのではないのでしょうか。

単なる知識の獲得ではない、子どもたちの心を揺さぶるもの、それが実験・観察なのだと確信しています。

- 小学1・2年、3・4年、5・6年の2学年構成です。
- 小学1・2年は主に科学工作を中心に実験します。上皿天秤、顕微鏡、ガスバーナーなどの基本的な実験器具の扱い方も学習します。
- 小学3～6年は学校で学ぶ項目を、基礎からより高度なものまで、実験を通して学習します。
- 年16回実施します。実施日程については時間割をご覧ください。

《卒業生の言葉》

- ・早い時期からたくさんの実験に触れられた経験が、その後の理科の勉強に大いに役立った。
たくさんの経験をさせてもらったことは私の人生の宝物だと思っている。 (大阪市立大学医学部 S・K)
- ・子どもの頃に経験した自然体験や理科実験は私の人生に影響を与えた大変価値のあったものと感じる。
また子どもの頃に理科実験の体験をしたことが今の仕事をしているきっかけになったと思う。 (川崎重工株式会社(エンジニア) J・Y)
- ・私にとって小中学生時代に学園で経験した理科実験は、科学的な思考力を身に着ける上での助けになったと考える。
幼少期の理科実験はその時期の学業に直接関係せずとも、人生を支える豊かな土壌になると私は確信している。 (防衛大学 D・Y)
- ・実験では一人ではできないような危険なものから、顕微鏡を使う基本的なものまでさせてもらった。
これらの経験は現在の私の原点になっていると感じている。 (九州大学 歯学部 K・H)
- ・どの実験も手触りや音、匂いがあり、五感の臨場感を持って記憶されており、こうしたことを楽しみ、感動しながら学べたことは、質の高い知識を得ることが出来、良い体験になった。 (京都女子大 保育士 K・Y)
- ・その場でなければ知り得ないことを実際に体験し、実験時の「失敗」そして「成功」を体験することで「原因の追究」を学び、これら全ての経験は新たな「好奇心」へ、そして現在へと導かれた。 (映像クリエイター／無人航空機パイロット T・T)

個別指導コース

【対象学年】 中学1年生～高校2年生まで

【実施教科】 《中学生》 数学・英語・理科
《高校生》 実施教科はご相談の上で決定致します。

『君に合った、君だけの学習方法を一緒に作り上げよう。』

個別指導コースとは、一人ひとりに合わせた学習方法・学習進度で、先生1人対生徒1人（マンツーマン）で指導を行うコースです。

- ◎ クラブ活動や習い事と両立させたい人
- ◎ 集団授業の時間帯とは別の時間帯で受講したい人
- ◎ 自分のペースで進めたい人
- ◎ 集団授業では気が散り集中できない人
- ◎ 集団授業では理解しにくい人
- ◎ 集団授業では質問しにくい人
- ◎ 苦手教科を解るまで教えて欲しい人
- ◎ 今までの遅れを取り戻したい人
- ◎ 定期テストの見直しを徹底的にして欲しい人



上記のような人を対象に設定されたコースです。

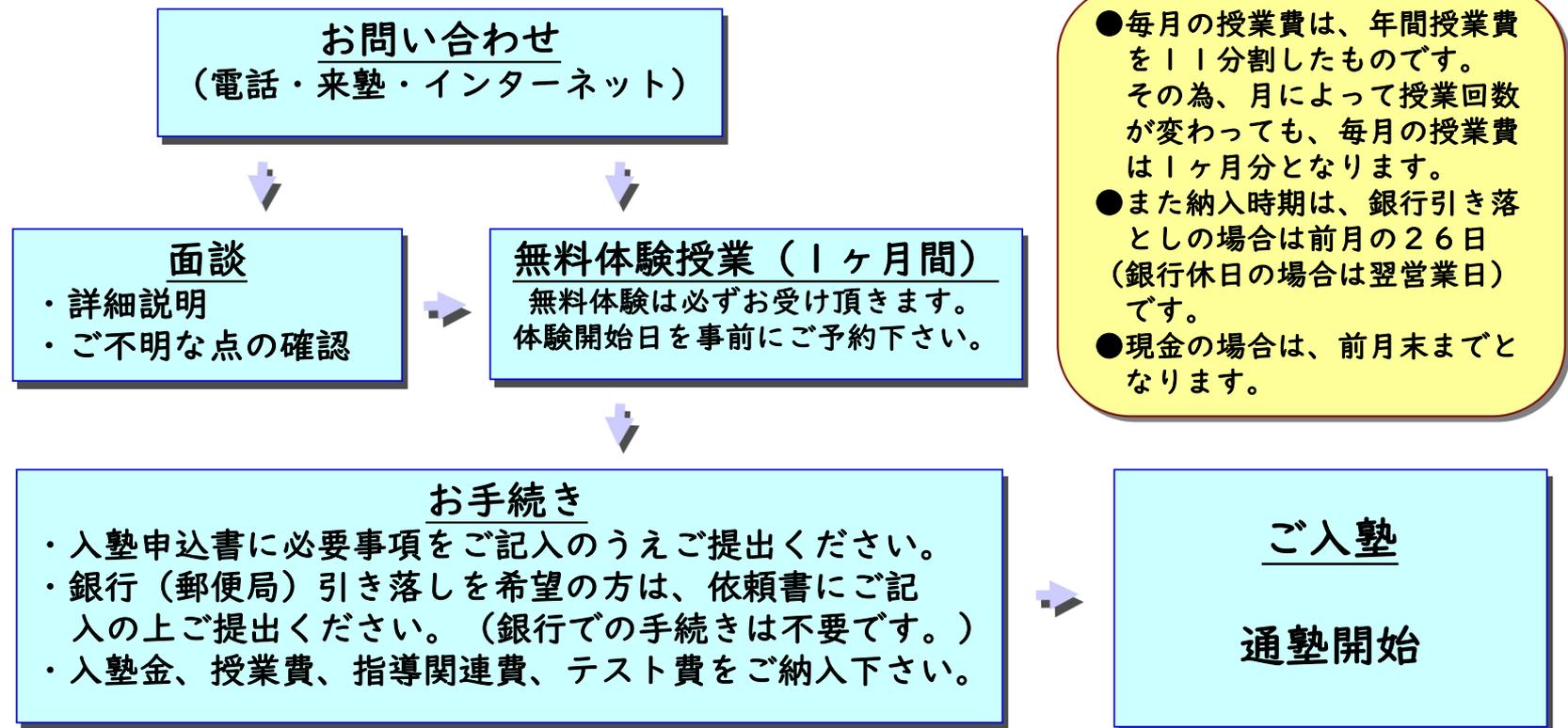
初めに、保護者様、お子との三者面談をさせて頂き、現状の様子や希望教科、希望曜日・時間帯、どの時点でどのようになっていたいかなどを打合せ致します。併せて、お子の性格や希望教科よりどのような先生が合うかを判断させて頂きます。出来る限り希望に沿った講師を選定致します。

受講が始まれば、定期的に振り返りを行い、進捗度合や改善点などを確認しながら次回以降の指導にあたります。担当講師の都合さえつければ、受講曜日や時間帯の変更が可能ですので、状況や希望に合わせた自由度の高いコースです。

ご入塾までの流れ

入塾前に1ヶ月間の無料体験授業を受けることができます。体験授業を受けて頂き、お子様自身の目で、耳で、学園の雰囲気確かめてください。その上で、お子様自身が「この学園で勉強をやるんだ!」という決意を持って入塾してください。

なお、この期間に学園側が生徒を観察した結果、「向学心に欠ける・他の生徒に迷惑になる・理科実験において危険である」など、学習に支障があると判断した場合は入塾をお断りする事もございます。予めご了承の程よろしくお願い申し上げます。



※藤原学園は『大阪市塾代助成事業』に参画しております。学園で利用される場合はお申し付け下さい。

教室紹介



今里本部校

〒537-0013

大阪市東成区大今里南3-4-24

TEL:06-6981-8935

FAX:06-6981-8956



若江岩田校

〒578-0941

大阪府東大阪市岩田町4-17-12

スパーサンコ2階

TEL:072-965-5549

FAX:072-965-6190

お問合せ

お問合せに関しましては、各校へお電話頂くか下記のHPからもお問合せ頂けます。

<http://www.fujiharagakuen.com>

藤原学園

検索



スマホサイトはこちらから

